

自公両候補当選へ固く握手



夏の参院選
愛知選挙区

小林、渡会両県議が決意アピール

信頼関係を構築、必勝を期す

「政権与党として愛知から2議席を」。選挙協力の決意を示す小林氏右と渡会氏＝東愛知新聞社で

自民・公明の政権与党から2人を必ず当選させる。間近に迫った参院選愛知選挙区(改選数4)をにらみ、自民と公明の県議2人が6日、そろって東愛知新聞社を訪れ、自公政権の安定化に向けて選挙協力を進める決意をアピールした。再選を狙う自民党現職・藤川政人氏(55)と公明党新人・里見隆治氏(48)の両候補予定者の東三河での選挙運動では、それぞれ応援演説のマイクを手にするなど必勝態勢を強固にしていくことを確認し合って固く握手を交わした。(藤田彰彦)



藤川政人氏



里見隆治氏

本社を訪れたのは、明・県党本部副代表は、自民の小林功(豊橋市)の両県議。元県議会議長(豊川市)と公明の渡会克(豊橋市)と公明の渡会克(豊橋市)は99年10月から09年9月

と、12年12月から現在まで継続してきたが、両党の県議が選挙協力の姿勢を示すために東愛知新聞社を訪れたのは初めてだ。

藤川氏1人に絞った。代わりに里見氏を推薦した自公の与党勝利を確実にしたい戦略からだ。「もし自民から2人を出せば、公明候補が落ちて民進の2人が当選する可能性も出てくる」と擁立候補を藤川氏1人に絞った背景を説明した。

一方、渡会氏は、3年前の参院選でねじれ国会が解消した。今回は自公による「安定」か、野党による「混乱」か、どちらを選択するかを「選挙だ」と強調。「選挙のたびに離合集散している野党に(政権は)任せられない」と野党連携を批判しながら、9年ぶりになる参院議席奪回へ向け、「何としてもリベンジを果たしたい」と力を込めた。

小林氏は「自民が公明を応援していることを有権者に分かってもらうことが、私の一番の役目」と述べ、渡会氏は「心強い。今回初めて、と思える形で信頼関係を築けたのはうれしい。必ず結果を残す」と答えて、握手を交わした。

「ここに3票あれば、そのうちの1票を里見氏に入れて、何とか押し上げるようにする。本気でやりますよ」と小林氏。安保法制に絡む「逆風」もにらんで今回選挙では、党候補を

一方、渡会氏は、3年前の参院選でねじれ国会が解消した。

小林氏は「自民が公明を応援している

6月22日公示・7月10日投票の参院選の愛知選挙区には自公各1、民進2、共産1など9人が立候補する見込みで、与野党の決戦となる。